

〈東京都立大島海洋国際高等学校 TEL:04992-4-0385 FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：S8000531@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：<http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html>

台風26号による大島土砂災害

亡くなられた方の御冥福をお祈りし、行方不明の方が一日も早く発見されますように祈念いたします。

10月15日、台風が接近したものの、学校は支障なく授業をし、部活のみ切り上げて早く帰宅させました。17時頃より学校周辺も風雨が強まり始めました。

16日早暁の2時頃に風がかなり強まり、打ち付ける雨の音で目が覚めるほどでした。その頃、元町に住んでいる先生の話では、大変な豪雨であったそうです。今までに見たこともないような強い雨が降りしきり、身の危険を感じるほどのものであったそうです。朝になると住宅の周りは5cm程、砂で覆われていたそうです。

その頃、三原山の中腹が崩壊し、元町神達地区と元町三丁目の家々を押し倒して、土砂が海岸まで達しました。2階に上がったたり、寝室を移動したりして助かった方もいらっしやいましたが、多くの方が土石流に押し流された様です。

学校周辺では、明け方、「火山博物館の前が通行止めになっている」との防災大島の放送がありましたが、どのような被害があったのか、判りませんでした。

16日はバスが動かず休校となりました。17日は天候が回復したものの、バスが運休で徒歩通学となりました。18日よりバスの運行が再開になりました。19日土曜日・20日日曜日は次の台風が静かに接近してきました。保護者の方々の心配も測りきれず、22日に一斉帰省といたしました。生徒も教員も少しでも被災された方の力になりたいと思いながらも何も出来ない苛立ちが募るばかりでした。避難所になる可能性があり、武道場の畳とマットを移動し、通路と寝る場所を確保しました。体育館は外壁工事をしているため、避難所には向かないと判断していました。23日に体育館を警察の応援隊が休憩所に使用することになりました。200名の警察の方が交代で休まりました。

25日全島に避難勧告が出されましたが、本校は避難所として指定されませんでした。

27日、台風も過ぎ去り、学校再開となりました。29日より4日間考査を行ない、11月3日65名の生徒が被災地へのボランティアに参加しました。工場や床下に入り込んだ土砂を出す作業を一般のボランティアの方々と行いました。土砂が押し寄せ、家屋を倒壊させたり、家の中や床下に土砂が入り込んだりしている場所にお住まいの方の一日も早い復興を願ってやみません。



セーリング部 国体出場



江東区でおこなわれた東京国体セーリング競技に3年生の安武千寿君・山元千緒里君が出場しました。5年前に強化指定校となりました。今までの出場はシングルハンド(一人乗り)でしたが、今回は早稲田高等学院・慶応高校のチームに勝って念願のダブルハンド(二人乗り)初出場となりました。安武君は開会式で宣誓を行いました。



最終的には36チーム中14位で

したが、7位でゴールしたレースもあり、好成績を収めました。

【生徒感想文】

自分達は、初めての全国大会ということで緊張しましたが、とても楽しくレースを行うことができました。国体に出場できたのは、地域の皆様、関係者の皆様がいろいろな形で応援してくださったおかげです。このような貴重な体験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。

山元 千緒里

(右の写真は「大島町 炬火イベント報告書」より)



国体ボランティア

9月末に行われた東京国体の相撲競技とセーリング競技の運営にボランティア参加しました。相撲競技では会場の清掃、受付、案内、召集やプラカード係を行いました。セーリング競技では大会運営に当たりました。終了後、大島町の川島町長より大会の成功は高校生のボランティアの協力によるところが大きいと感謝の手紙をいただきました。



大島町体育レクリエーション大会

10月13日、晴天に恵まれ元町のつばき小学校で第57回大島町体育祭体育レクリエーション大会が開催されました。大島海洋国際高校は部活の垣根を越えた13名の生徒たちが参加しました。高校生らしいクリーンで素晴らしい熱戦を繰り広げて、大会を盛り上げてくれました。上級生、特に3年生の頑張りが目立ちました。「最後」という思いがひしひしと伝わってくる思いでした。

1位で表彰された人は以下の通りです。

400mリレー高校女子

北原 奈々・野口 美由紀
・大迫 美波・浜野 歩美

1500m高校男子 鈴木 信康

走高跳高校男子 林 良輔

砲丸投高校男子 飯澤 海太郎

走幅跳高校女子 北原 奈々



Ⅱ 類 1 次国際航海学習

10月7日海洋系20名の国際航海学習が始まった。東京で積み込みや気象庁職員から講義を受け、11日東京を出港した。南方から台風26号が徐々に北上して来ていた。沖縄でスクーバダイビング実習、海洋施設と史跡の見学をし、船長の英断により、17日那覇を一日早く出港しサイパンに向かった。台風27号と28号がサイパン付近で発生し、西に向かって移動中であった。直接サイパンに向かわず、南方に大きく迂回する進路が取られた。うねりがあったものの、大時化にはならなかった。サイパンではスキューバダイビング実習、史跡見学、サイパン南高校と国際交流をおこない、国際感覚を養うことができた。27日、サイパンを出港し、底魚一本釣りの生物調査をして11月3日に東京に入港した。5日に東京を出港し波浮港に入港、7日に下船式を迎えた。



【 生徒寄稿 】 大島に恩返しをしたい

3年 中溝 晃弘

元町地区で起こった土砂災害に、大島海洋国際高校の多くの生徒はすぐにでも被災地へ行ってボランティア活動をしたいと考えていました。しかし、状況が整わず、なかなか被災地へ助けに行くことができず、悔しい思いを抱いていたと思います。私もその中の一人でした。

入学してからもうすぐ3年となり、半年を残さずに卒業を迎える私にとって、今回の災害は衝撃的なことでした。

私はボランティア部に所属しており、学校内や地域の方々からアルミ缶を回収し、潰して本土の回収業者に引き取ってもらっています。その売却代金で島内の福祉施設に車椅子を寄贈する活動をおこなっています。災害が起こる数日前にも私はアルミ缶を回収するため、元町を訪れていました。台風の通過によって、先日通った道は土砂で埋まり、全く違う光景がテレビで報道されていました。言葉がありませんでした。

数日後に、寄宿舎生は一時帰省することとなり、被災地を支援できないまま、やるせない思いをぐっところえて自宅で大島の報道を見ていました。『今の自分に何ができるのだろう』とずっと考えていました。

大島へ戻り、ボランティア部の顧問の先生と相談を重ね、部として復旧活動に参加することになりました。

現地では2週間以上経っているのに建物の中に土砂が残っており、生活をするには厳しい状態のところが予想以上に多くありました。社会福祉協議会で割り当てられた家屋の土砂をかき出す作業を、仲間と協力して他のボランティアの方たちと一緒におこないました。「もっと多くの人にボランティアに参加してほしい」と身をもって感じました。

その後、学校全体でもボランティア活動が始まり、多くの生徒が活動に参加しました。これから、まだまだ多くの人手を必要とすることがあると思うので、多くの生徒がなるべく複数回参加して欲しいと思います。ボランティアで一番大変なことは「行き続けること」です。私も今後、学校や部活動を通してボランティアを続けていきたいと考えています。今こそ海国生が大島のために動く時だと強く思います。

今回学校でボランティア活動をおこなうにあたり、大島バス、日本赤十字社東京支部、波浮港青少年対策委員会、NPO法人波浮の港を愛する会より御支援をいただきました。ありがとうございました。

【お知らせ】日経ビジネス9月9日号の記事に関し、日経ビジネス10月21日号にて訂正文が掲載されたことをご報告いたします。

